

稲作

営

農

情

報

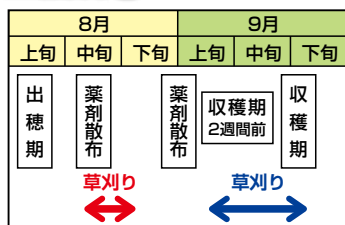
【登熟の向上を図る水管理】

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。
- 最高気温が30℃以上になる日は、用水を確保できる地域ではかけ流しかん水を行い、地温を下げ根の機能減退を防止します。また、フェーン現象等で乾燥した風が強い日は湛水状態を保ち、蒸散による稲体の消耗を軽減します。
- 落水時期は、出穂30日後頃を目安としますが、稲の登熟度やほ場の作業性等を考慮してください。落水時期が早すぎると、根の機能が低下し登熟が妨げられるため、低温や日照不足により登熟が緩慢な場合や、生育が旺盛な場合は、落水時期を遅らせてください。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。

【斑点米カメムシ類の防除対策】

- 水田内に出穂したカヤツリグサ科雑草（ホタルイ等）やノビエが発生しているほ場、イネ科雑草が主体の牧草地や休耕田等の発生源に隣接しているほ場では、斑点米被害軽減のため、出穂期24日後頃にキラップ剤を必ず散布するようにしてください。
- 近隣に水稻以外の作物（野菜等）がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にし、散布作業を実施してください。
- 飼料用米についても、主食用米同様に防除を徹底してください。
- 稲の収穫2週間前までは、草刈りを行わないでください。

【本田防除】



アカスジカスミカメ		成虫侵入	産卵	幼虫発生
出穂期後日数		0	7~10	21~24 28~34
防除体系	莖葉散布剤（長期残効性）		●	●
	湛水散布剤（粒剤）	●	●	

分類	使用時期	使用薬剤	使用量(10aあたり)	使用回数
●	出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	3回以内
●	出穂期10日後頃	スタークル液剤10	1000倍150ℓ	3回以内
●	出穂期7~10日後	スタークル粒剤	3kg	3回以内
●	1回目散布の14日後頃	キラップ粉剤DL	3kg	3回以内
●	1回目散布の14日後頃	キラップフロアブル	2000倍150ℓ	3回以内

※アカスジカスミカメが多発しているほ場では、スタークル剤を用いる。
 ※1回目散布剤との連用を避けるため、追加防除剤はキラップ剤とする。

来月のあなたの運勢（2020年9月）



牡羊座 (3・21~4・19) 気がせいともいつものペースを守って正解。相手が動いてから動いた方があなたの良さをアピールできます